



東北大学

ISSN 0385-7506 Vol. 30, No.2 2005



東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

ー木這子（きばこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）ー

目 次

○連載 和算資料の電子化（9）：シビルエンジニアとしての和算家…………… 1	○附属図書館オープンキャンパス2005開催報告…………… 19
○「平成17年度国立大学図書館協会賞」を受賞…………… 10	○最近の話題から（その5）「飛び回る妖怪」…………… 21
○平成17年度目録システム地域講習会（図書コース）を受講して…………… 12	○平成17年度東北大学附属図書館企画展「江戸の食文化ースローフードのルーツをたどるー」…………… 23
○平成17年度大学図書館職員長期研修に参加して…………… 13	○特別展示会「時代を語る雑誌たちー雑誌メディアと戦時動員ー」の開催…………… 25
○東北地区大学図書館協議会合同研修会に参加して…………… 14	○第60回東北地区大学図書館協議会総会…………… 25
○平成16年度参考図書購入報告…………… 15	○会 議…………… 26
○平成16年度特別図書購入報告…………… 17	○人事異動…………… 27
	○編集後記…………… 28

連載 和算資料の電子化（9）：シビルエンジニアとしての和算家

工学分館管理係長 米 澤 誠

1. はじめに

現代的な研究者像の先入観があると、和算家は純粋に数学的問題の研究だけに専念したというイメージを持つのではないのでしょうか。

しかし、和算家たちが書きあらわした和算書を見ていると、和算家はその初期から、測量や土木などのシビルエンジニアリングの分野に大きな関心を寄せていたことが分ります。

和算家たちが書きあらわした和算書・測量書

を通じて、和算家たちとシビルエンジニアリングとの関わりについて見ていきましょう。

2. 江戸初期の測量・土木

（1）吉田光由の『塵劫記』

寛永年間（1624～1643）に成立した、初期和算書の中で最も著名な『塵劫記』には、検地・治水・掘割・測量などを題材とした問題と解法が記載されています。検地は面積計算、治水・

掘割は容積計算，測量は幾何学計算の応用問題としてとりあげられたのでしょうか。

「河普請のこと」と題された治水の問題には，堤の盛り土の量の算法，蛇籠の容積の算法，三角柱や四角柱の角柱の容積の算法などが示されており，当時の治水工事技術の一端を知ることができます。

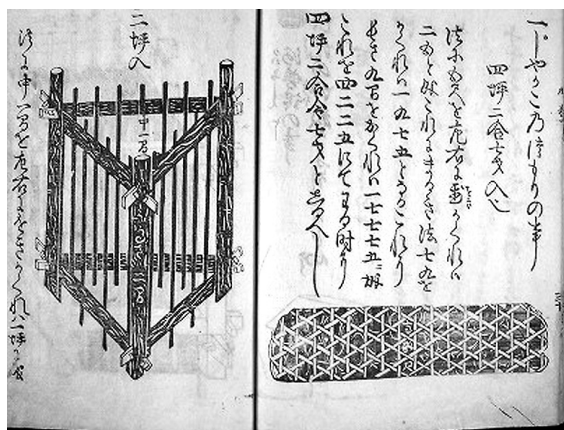


図1.『塵劫記』，寛永4年（1627）
河普請のこと 蛇籠（石詰め籠）と三角柱枠

また，「立木の長をみつめること」と題された問題では，鼻紙を折って作った直角二等辺三角形を使って木の高さを測るという，三角形の相似を利用した最も初歩的な測量術が示されています。

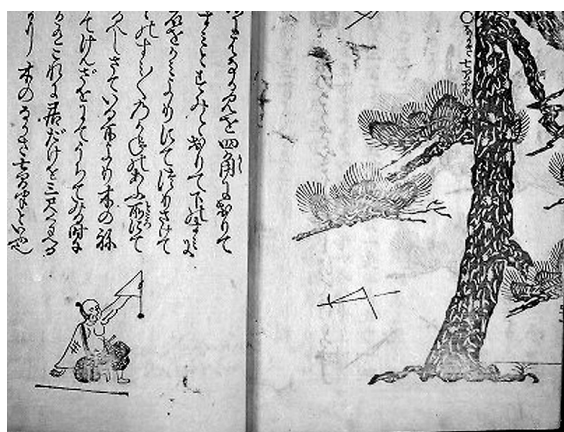


図2. 同『塵劫記』
立木の長をみつめること

著者の吉田光由は，京都の豪商角倉一族につらなる人物です。光由に大きな影響を与えたといわれる角倉了以は，私財を投じて保津川の開

削と高瀬川の開削という大土木事業を行ないました。

そして，光由自身も京都北嵯峨の水不足対策のため菖蒲谷池を築造し，山腹に長さ190メートルの角倉遂道（トンネル）を開削したとされています。これも寛永年間のことであったと伝えられており，菖蒲谷池と角倉遂道は今も京都に残っているのです。

角倉一族に伝わった和算の知識と技術は，これらの事業を成功させるために不可欠なものであったのでしょうか。また，吉田光由という人物の才能を通じて，『塵劫記』という名著に結実することとなったのです。

（2）山田正重の『改算記』

『塵劫記』と並んで江戸期に版を重ねた『改算記』には，多くの普請問題が掲載されています。見出しをひろってみると，屋根ふき・瓦ふき，堤・蛇籠・石垣・天守台などの普請（工事），大車や修羅・心棒持ち（むかで持ち）・はさみ持ちによる運搬，石積み・勾配坂・階段・石垣組みの橋の普請など，多くは町づくりに関わる事柄です。添えられた挿絵から，当時の土木作業の実際を垣間見ることができるという点で，興味深いものがあります。

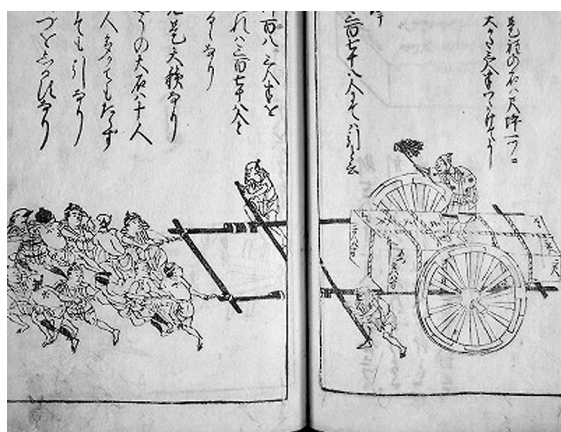


図3.『改算記』，万治2年（1659）
大石を大車で運ぶ図

さて，『改算記』はもともと上・中・下の3巻ものとして構想されたのですが，これら普請問題は中巻の後に「三巻」として変則的に追加

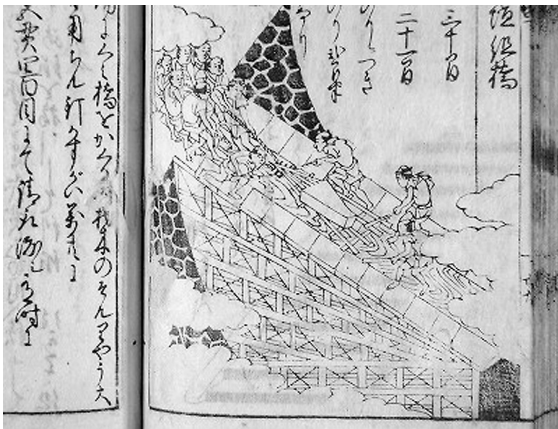


図4. 同『改算記』
石垣組みの橋の図

されています。そしてこの普請の巻の末尾には、著者により次のような一文が記せられているのです。

「右の普請一卷は、わが父が先年より江戸京大阪のご普請に数度関わって知らされたことのあらましを記するものである」

『改算記』は、江戸の社会が安定し江戸京大阪という大都市の町づくりが進展した江戸初期、とりわけ明暦3年（1657）の江戸の大火直後に大々的に江戸の町づくりが行なわれたこの時期に刊行されています。著者の山田正重は、和州（奈良）大和郡山の人という以外、その詳細は明らかではありません。しかし、普請に携わっていた技術屋の子孫が和算書を著している点、さらに普請問題を大幅に取り上げ、当時の普請の知識と技術を後世に残していることは、実に興味深いことではないでしょうか。

（3）村瀬義益の『算法勿憚改』

関孝和が活躍する直前の時期に刊行された『算法勿憚改』という和算書でも、検地や普請などの問題が取扱われています。これらに加えて興味深いのは、次のような測量のための器具が図示されていることです。

後の元禄年間（1687～1704）に、紀州の役人として領内の河川に用水路を築造するのに功績があった大畑才蔵は、この種の水盛り器（水準器）を使った土地の高低を測量する技術につい

て詳細な記録を残しています。紀州藩の新田開発において、事前調査、測量、普請方法決定から施工にいたるまで中心的に関与した大畑の著作本文を読むと、和算による計算・測量の技術知識があったことがよく分かります。この治水技術は、後に幕府にも採用されるところとなりました。

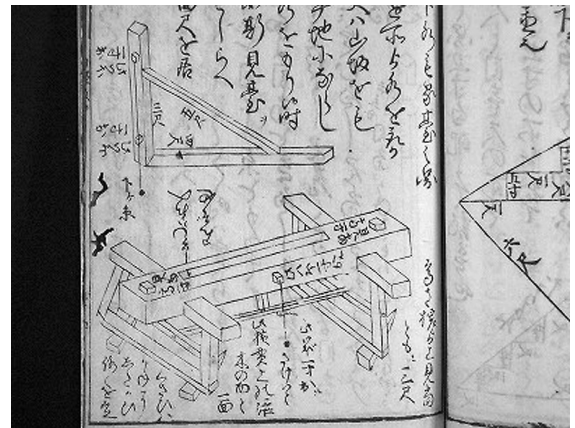


図5. 『算法勿憚改』、延宝元年（1673）
高下水もる台の図（水準器）

3. 江戸中期の国家的測量・土木事業

（1）西洋流規矩術の流入

和算書により「町見術」と呼ばれた測量術や普請の技術が伝えられる一方、江戸の初期に長崎のオランダ人から伝わったとされる西洋流（紅毛流）の「規矩術」という測量術がありました。

規矩術は、量盤（見盤）を用いた今日の平板測量に相当する「量盤術」、磁石と方位盤を組み合わせた「盤針術」、渾発（根発）を用いて距離を求める「渾発術」などの技術からなります。

この規矩術は、オランダ人から長崎の樋口権右衛門という学者に伝えられ、その後多くの弟子に伝授されました。この規矩術を一つの流派として形成したものが清水流ですが、秘伝とされていた江戸初期の記録としては、写本という形でしか残されていませんでした。

規矩術は、明暦の大火（1657）の後の江戸測量地図作成の時に用いられ、幕府に評価されました。北条流兵学者の大目付北条氏長のもとで、

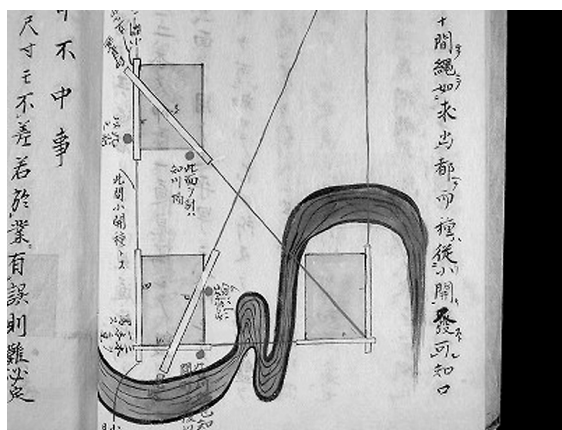


図6．清水流量書『規矩元法』
量盤術

規矩術に通じた者が十数日で江戸を測量し、実測による初めての江戸図『明暦江戸実測図』を作成したといわれています。この後、この図をもとに、多くの江戸図が刊行されることとなりました。

江戸初期に日本に根付いた西洋流測量術は、これ以降、和算家たちの測量術と渾然一体となり、幕府が国家的政策として押し進める国絵図作成事業の中で、重要な役割を果たすこととなるのです。

(2) 国絵図作成と和算家たち

測量術に長けていた和算家たちが、幕府の国絵図作成事業に大きな関わりを持っていたことは、多くの研究で明らかにされています。諸国の大名に命じられた各藩の国絵図の作成は、測量に秀でた人材の社会的評価を高める結果となったのです。

慶長、寛永、正保の国絵図に続く4回目の元禄年間（1687～1704）の国絵図作成の時、福岡藩は星野実宣という人物を登用しました。星野は、和算に天元術（方程式）の考え方をもたらした『算学啓蒙』という漢籍の註解書を刊行して実績があった和算家でした。抜擢された星野は、国絵図作成における測量の責任者として大きな業績があったことが、福岡藩の記録にも記されています。

また、『秘伝地域図法大全』という規矩術の著作を残した細井広沢は、元禄直前期の国絵図作成事情について、次のような非常に興味深い記述を残しています。（以下、意識）

「当時明石藩の藩主であった松平日向守信之は、浪人の村井三左衛門とその師の木部四郎右衛門を登用して領内の絵図を作成させたところ、非常に迅速に完成させたことに驚嘆した。また、大和郡山藩に転封させられた時（1679）にもこの二人に絵図作成を命じたところ、前藩主の時代に多くの人間が苦勞して三四年がかりで作成した絵図を少人数で完成したため、土地のものから大いに賞賛された」

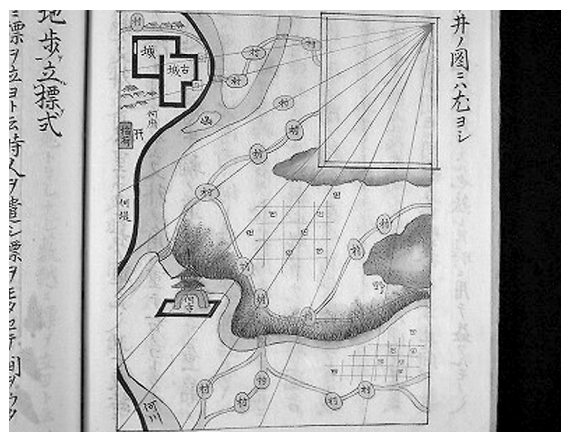


図7．『秘伝地域図法大全』，享保2年（1717）
縮図の法

測量技術の専門家集団が存在し、藩あるいは幕府の国家的事業に、それらの人材が不可欠であった状況がありありとかがえる記録ではないでしょうか。

元禄の国絵図に次ぐ享保年間（1716～1735）の絵図作成事業では、各藩による国絵図作成は命ぜられず、諸国の位置関係に問題があった元禄の日本総図の改訂が行われました。この事業を命じたのは徳川吉宗であり、最終的に改訂の責任をおったのは関孝和の高弟の和算家で、吉宗の諮問（ブレン）であった建部賢弘^{たてべ けんひろ}でした。

建部は、従来の各藩の国絵図を繋ぎ合わせるのに、諸国から特定の地点（山）に対する方位角を測らせ報告させました。建部は現在「交合^{こうごう}

法」とよばれるこの手法により、享保13年（1728）に日本総図を完成させました。新しい手法によるこの享保日本図は、諸国の位置関係の精度が高いものであると評価されています。

しかしながら、幕府が実測による本格的な日本図を手にするためには、次の時代の伊能忠敬の登場を待たなければなりません。

（３）普請役の設置と和算家たち

一方、大畑のもとで成果をあげた治水術は、紀州藩出身の徳川吉宗によって、「紀州流」の治水技術として幕府に採用されることとなりました。享保9年（1724）に幕府は新たに普請役を設置し、12名の普請役には紀州の土木技術者を多く登用したとされています。

普請役は、当初関東近辺の治水工事を担当していましたが、その後関東に加えて全国15か国の幕府領の普請も担当するようになり、人員も100名を超えるほどになります。

治水工事は、農業の生産性を上げ、石高を増やすためには必須のものであり、幕府や各藩は治水政策の強化に努めることとなります。治水技術者による技術書の多くは、写本というかたちで伝えられていました（図8～10）。これらは後に、和算家たちの手により地方（検地・測量・普請・租税などの農政に必要な知識・技術の総称）書としてまとめられ、出版されることとなります。

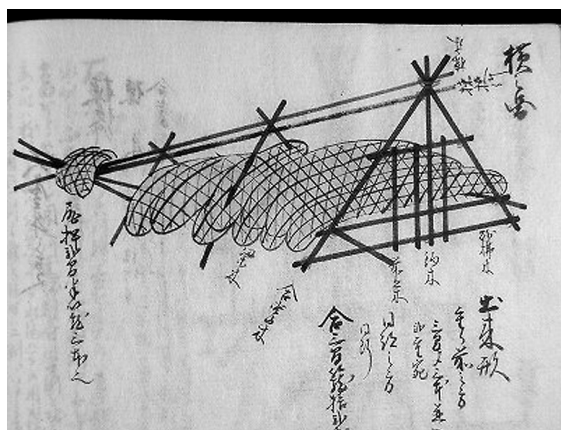


図8.『御普請袖秘録』
大聖牛の図（木枠に蛇籠を重りとした水制）

幕府普請方に蓄積された普請の技術が明治以降も重用されたことは、『堤防橋梁積方大概』（明治4年）や『土木工要録』（明治14年）といった普請方の技術を復刻・改訂した官版（政府版）の刊行が、明治期に続いたことでも明らかでしょう。

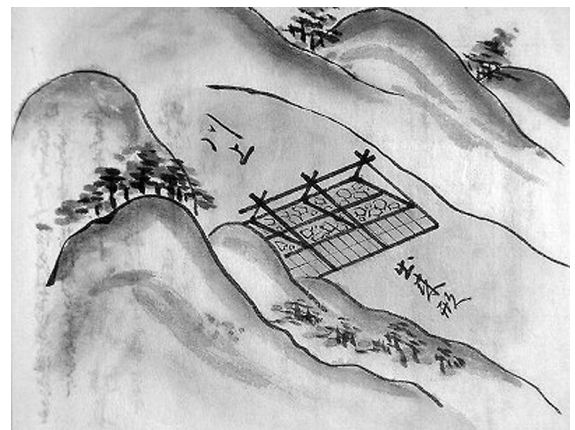


図9. 同『御普請袖秘録』
牛の設置絵図

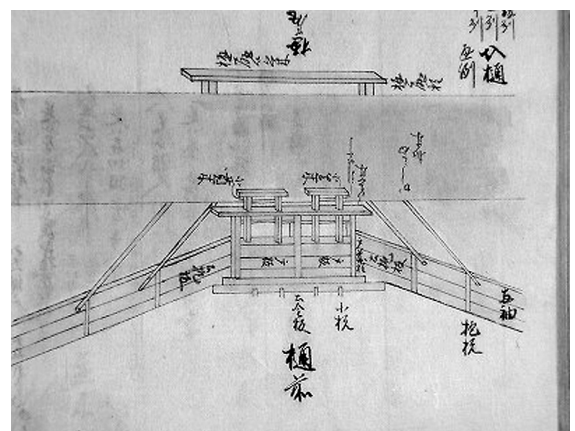


図10. 同『御普請袖秘録』
樋門の図

後に関流和算に対抗した最上流を創始する会田安明は、郷里の山形から江戸に出て幕府の普請役を務めたことでも知られます。会田は、明和・安永年間から天明7年（1787）までの間、鬼怒川や利根川近辺の治水工事に携わっていました。

普請役としての勤務の間にも、和算の研鑽をかさね、天明5年（1785）には初めての著作『当世塵劫記』を刊行しています。天明7年に役職

を解かれて後は和算研究に専念し、600巻にもわたる膨大な著作を残すことになるのでした。

会田と20年にわたる論戦をくり広げた関流の和算家、神谷定令も幕府の普請役でした。また、神谷と同門の石黒信由（1760～1836）は、加賀藩において重用され、検地・治水・開墾のほか、加賀・越中・能登三州の測量と地図作成に大きな功績を残していることが知られています。

（４）測量書・地方書の公刊

新田開発を奨励するとともに、キリシタン書禁令をゆるめて暦算書を積極的に輸入した享保年間には、次のような多くの測量書・地方書が出版されます。

栗田久巴『新編地方算法集』、享保5年
 万尾時春『見立算規矩分等集』、享保7年
 栗田久巴『新編地方算法後集』、享保9年
 万尾時春『算法入勘農固本録』、享保10年
 村井昌弘『量地指南』、享保18年
 島田道桓『規矩元法町見弁疑』享保19年

それぞれの著作は、先行する測量・土木技術を体系化するとともに、新たな測量器具も考案して示しています。なかでも有名なのは、万尾時春の著作で図示されている器具で、これは現代のアリダード（指方規）に相当するものとされています。

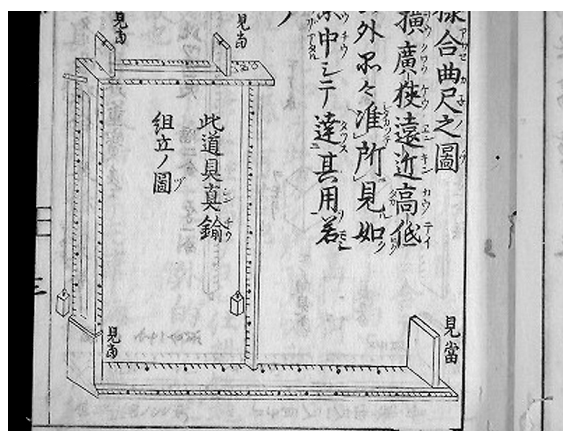


図11. 『見立算規矩分等集』、享保7年（1722）
 四方六面様合曲尺の図

伊勢の村井昌弘の『量地指南』は、西洋流規矩術の集大成ともいわれる著作です。量盤や渾発といった器具を使った測量術が、図解で分かりやすく示されています。

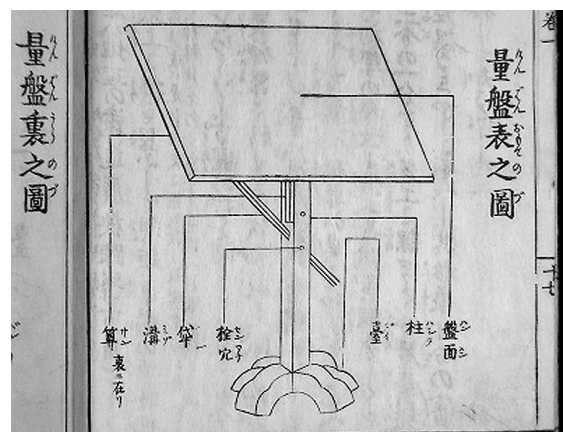


図12. 『量地指南』、享保18年（1733）
 量盤の図

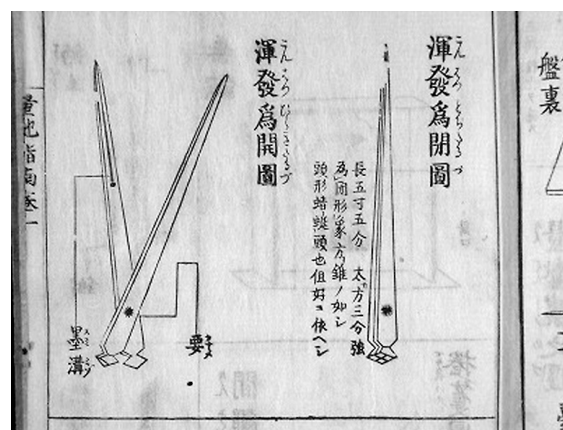


図13. 同『量地指南』
 渾発の図



図14. 同『量地指南』
 精眼の図（眼力を精しくしての目測）

治水技術者や兵法家など特定の技術集団にだけ伝えられていた技能が、出版という活動により広く普及することになったことの意義は大きいものと思います。刊本による測量技術の普及を土壌として、次の時代に伊能忠敬のような人物が登場することになったのではないのでしょうか。

4. 江戸後期の測量・土木

(1) 伊能忠敬の測量術

寛政12年(1800)から10回にわたって全国測量を行い、文政4年(1821)に伊能図を完成させた伊能忠敬の事跡についてはよく知られていますので、ここではその測量術について確認しておきましょう。

伊能の測量術には、特に新しいものはないとされています。歩測・間縄・鉄鎖を使って距離を測定し、方位盤などにより地点間の角度を測定して、これを繰り返して進んで行く「道線法」がその基本です。これにより、主要街道や海岸線などの計測線を確定し、それをもとに地図化したのが伊能図でした。伊能図では、計測線は朱書きで示されています。

これに、各地点から目印となる山などへの方位線を利用して全体的な位置関係を補正する「交会法」を併用して、精度を上げています。当時は、以上の2つの測量方法を合わせて「遠里の法」と呼んでいました。

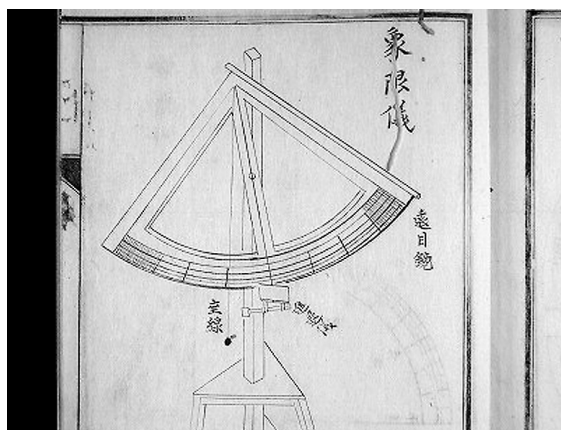


図15.『伊能東河先生流量地伝習録』、
文政7年(1824)写、象限儀の図

さらに伊能は象限儀を用いて天体観測を行い、測定の誤差を補正しました。伊能図には、天体観測を行った場所が☆で示されています。伊能忠敬の弟子である渡辺愼が残した『量地伝習録』は、そのような伊能の測量の実際を伝える資料となっています。

(2) 幕末の測量書・地方書と数学道場

享保年間以降から幕末にかけて、次のように夥しい数の測量書・地方書が刊行されます。

村井昌弘『量地指南後編』、寛政6年(1794)

石黒信由『算法渡海標的』、天保6年(1835)

奥村増貝也『量地弧度算法』、天保7年(1836)

長谷川寛・村田恒光『算法地方指南』、天保7年

長谷川寛・秋田義一『算法地方大成』、天保8年(1837)

藤岡有貞『渾発量地速成』、弘化3年(1846)

山本正路『量地必携』、嘉永3年(1850)

長谷川弘・甲斐広水『量地図説』、嘉永5年(1852)

村田恒光『六分円器量地手引草』、嘉永6年

剣持章行『量地円起方成』、嘉永6年

福田理軒『測量集成 初編・二編』、安政3年(1856)

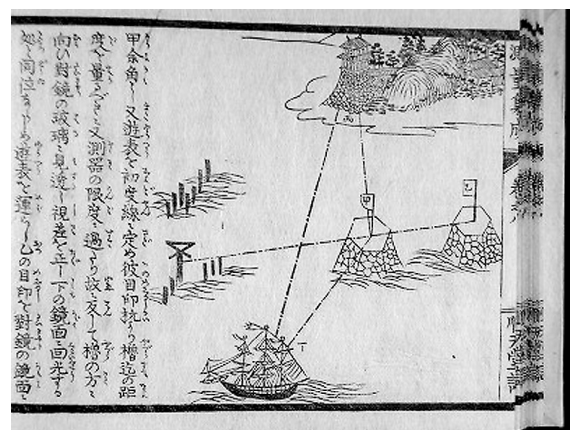


図16.『測量集成』、安政3年
三角法による測量の図

三角法は、既に享保年間に輸入されていた書籍により和算家に知られていましたが、測量術には使用されることがありませんでした。よう

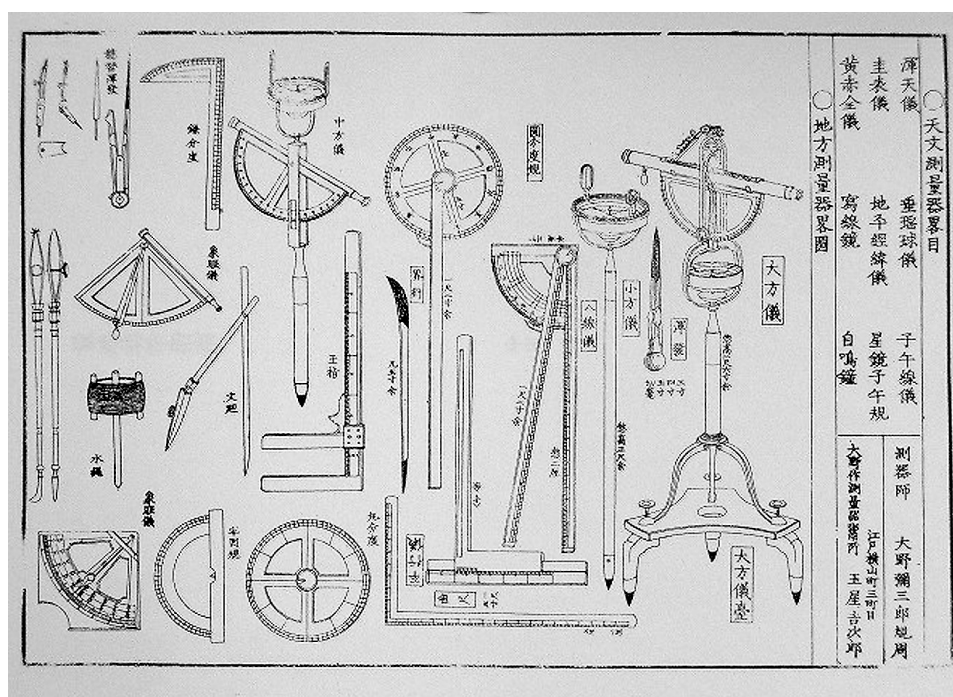


図17. 幕末の測器師 大野彌三郎の地方測量器

やくこの時代になって、三角法を使用した測量書が数多く登場しています。

また、図17のように、この時代になると測量器具も精密になっていることが分かります。

共著というスタイルで多くの和算書を刊行した長谷川寛・長谷川弘親子は、関流の和算を継ぐ流派として、江戸の神田で数学道場を主宰していました。測量・地方の分野でも教科書的な書籍を刊行しています。この長谷川道場は全国に門人を持ち、『社友列名』という名簿によると幕末には150名あまりもいたことがわかります。通信教育的な教授を行うなど、全国的なネットワークが形成されていたとは驚くべきことではないでしょうか。

長谷川流の著名な門弟とその弟子の中には、測量・土木と係わりの深かった人物が多数見受けられます。幕府の大工方で品川のお台場の施工にあたった平内廷臣、測量に通じていた津藩士の村田恒光と柳樹悦、笠間藩から幕府勘定方（財政の役人）に登用された小野友五郎、天文にも通じていた仙台藩士の菊池長良など、幕末に活躍した和算家たちを見つけることができます。

（4）長崎海軍伝習所による西洋科学・技術の導入

小野や柳はまた、安政2年から5年（1855～1859）に開校していた長崎海軍伝習所において、オランダの航海術・操船術・造船術と基礎科学を学んでいます。西洋流の測量法は、江戸期を通じて伝播していたのですが、三角法による測量術や航海術の実地での応用は、これが初めてのことでした。安政6年にはすでに、品川港・神奈川港の実測図を作成したといわれています。

和算を習得していた彼らは、西洋科学と技術の習得に群をぬいていたといわれます。のちに小野は、咸臨丸航海士としてアメリカへの航海を成功させ、柳は明治以降に天文・海軍の分野で政府を主導する役割を果たすことになります。

この長崎海軍伝習所には、幕府だけではなく、佐賀藩やその他の藩からも伝習生が参加していて、その数百人規模といわれています。三角測量などの西洋技術の導入は明治初年度というのが通説でしたが、すでに江戸幕府が積極的に導入を図っていたことが分かります。これら幕末

の知識階級が、明治期の近代化に大きな役割を果たしたことは、もっと評価するべきでしょう。

5. おわりに

以上、江戸期全般を通じて、和算家たちが測量や土木に多面的に係わってきたことを、資料を通じて紹介してきました。最後に象徴的な事例として、算聖とも呼ばれる関孝和もまた、測量や土木に係わりがあったことを紹介しましょう。

徳川家宣は、甲府藩主から7代将軍になった人物です。甲府藩時代から家宣に仕えていた関は、甲府藩の官僚として元禄の国絵図作成に係わりをもっていました。そのことは、甲府藩と境界を接する信濃松代藩との境界確定のための事務処理の文書に、署名人として名を連ねていることで知られます。

また、甲府藩は武田信玄以来発展させた治水技術をもち、領内の新田開発を着実に進めていたといわれます。貞享元年（1684）から翌年にかけて、甲府藩では領内の検地を実施しました。その検地の結果をまとめた台帳「水帳」の末尾に、関孝和の名前を見出すことができます。当時、関は甲府藩の勘定方として、検地や治水の責任者であったのです。

貞享元年の前の年である天和3年（1683）に、関は『解伏題之法』という連立方程式の解法を示す著作を書き上げています。これは、西洋において初めてとされるライプニッツの書簡に先立つこと10年となります。

今では和算の著作でのみ知られる関ですが、勘定方としての職務をこなす有能なテクノクラートが、職務の合間に歴史的な数学研究を行っていたということは、驚嘆に値するものではないでしょうか。ここにも、私たちの江戸時代のイメージを大きく見直す材料があると思います。

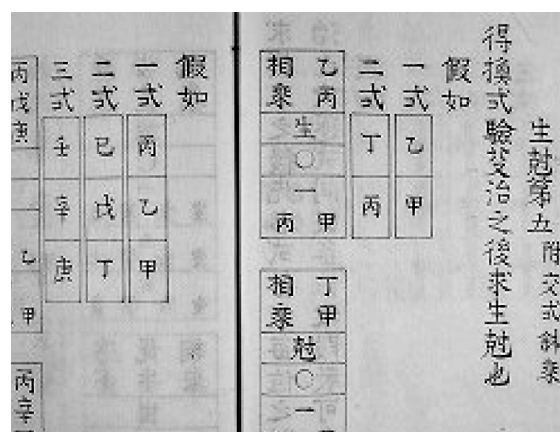


図18.『解伏題之法』

参考文献：

本稿をまとめるにあたっては、主に次の文献を参考にしました。

- 1) 関孝和の記録、国絵図と和算家に関して
 - ・佐藤賢一、『近世日本数学史』，東京大学出版会，2005
- 2) 江戸時代の測量術に関して
 - ・川村博忠、『近世絵図と測量術』，古今書院，1992
 - ・松崎利雄、『江戸時代の測量術』，総合科学出版，1979
- 3) 江戸時代の川普請に関して
 - ・『川除仕様帳ほか』（日本農書全集65），農文協，1997
 - ・古島敏雄、『近世科学思想. 上』，岩波書店，1972
 - ・『土木工要録（付録）』（江戸科学古典叢書8），恒和出版，1976
- 4) 長崎海軍伝習所の評価に関して
 - ・藤井哲博、『長崎海軍伝習所』，中公新書，1991
 - ・藤井哲博、『咸臨丸航海長小野友五郎の生涯』，中公新書，1985
- 5) 和算史全般に関して
 - ・日本学士院編、『明治前日本数学史』全5巻，岩波書店，1954
 - ・佐藤健一ほか、『和算史年表』，東洋書店，2002

※写真はすべて、東北大学附属図書館の所蔵資料によるものです。

（よねざわ・まこと）

「平成17年度国立大学図書館協会賞」を受賞



6月30日（木）に名古屋大学を会場として開催された第52回国立大学図書館協会総会において、東北大学附属図書館が平成17年度国立大学図書館協会賞を受賞しました。

国立大学図書館協会賞は、会員館（92館）に所属する者で図書館活動および図書館・情報学研究に顕著な業績をあげた者（個人およびグループ）に対して表彰状およびメダルを授与するもので、東北大学附属図書館の「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の制作刊行活動とそれを活用した全学教育科目支援の活動に対して授与されました。審査結果報告の中で「…これらの教材は、編集上の工夫や内容の改訂、サブジェクトにまで立ち入った深化が認められる。…また、冊子体、電子版としての刊行のみならず、オープンソースとして他大学にも提供していることは先駆的な事例として注目すべきものがある。…情報リテラシー教育の必要性、重要性を学内の構成員全体に再認識させるとともに、図書館ならびに図書館職員の地位向上に貢献している。」との高い評価をいただきました。

この賞は、故岸本英夫博士（元東京大学附属図書館長）の、わが国の大学図書館改革に関す

る功績を永く後世に伝えるために、岸本博士の遺族と全国の大学図書館関係者から寄せられた寄付金で設置された「岸本英夫博士記念基金」から拠出されており、東北大学附属図書館は平成8年に狩野文庫の和書の部目録編集により受賞して以来のものとなりました。

■ 国立大学協会賞受賞謝辞

総務課情報企画係長

佐藤 初美

東北大学附属図書館情報探索の基礎知識作成ワーキンググループを代表し、ご挨拶いたします。

このたびは、当館の活動をご評価いただきありがとうございました。情報リテラシーについては、東北大学は後発であったことは事実ですが、その分、先行例についての検討ができ、まとまった形になったのではないかと思います。

結果としてできあがったものをオープンソースとして公開したことも、自分たちもそういった先行例に助けられて活動を行うことができたので、おこがましい表現ですが少しでも恩返しのようなことができれば、との思いもありました。

従いまして、今回は東北大学の活動に対して受賞というかたちになっておりますが、広くは全国の大学図書館の情報リテラシー活動全体に対して評価をいただいたものと受け止めております。

本日この場で受賞させていただいたことについて、通常の順序とは逆になりますが、この活動を理解し支援し続けてくださった代々の館

長、部長、関連課長に感謝申し上げます。今回のように、係や課の枠を超えて行う必要がある活動は、こういった図書館トップの方々のご理解なしには、やり遂げることができなかったと思います。あらためて感謝申し上げます。

また、この場には私しかおりませんが、編集には東北大学附属図書館の若手職員ほぼ全員が関わっております。やればやるほど困難な編集作業に意欲的に取組み、妥協のない姿勢で当初のコンセプトを貫いていけたことは、彼らの努力のたまもの以外の何ものでもありません。一つの活動をやり遂げて、学外からもさまざまな評価をいただいたことは、井の中の蛙になりがちな地方大学の職員にとっては非常に貴重な経験となりました。大学図書館はもちろんのこと、基本編については、公共図書館、自然科学編については民間の会社からも職員研修などに利用したい、との申し出をいただき、思いがけず広いつながりを持つこともできました。

最初のきっかけは、学内で利用者に示すことのできる全学で統一された資料を作りたい、という現場担当者の思いです。初期の編集メンバーの中には別の大学、機関へ異動している者も少なくありません。今回の受賞をお知らせしたところ、非常によろこびつつ、外部から見た場合の評価など、作成にかかわったからこそ感じることのできる率直な感想をいただいています。これらはまたも私どもの力になり、現在編集集中である「人文社会科学編」完成への大きな励ましとなります。

メンバーは少しずつ入れ替わりながら活動を続けておりますが、核となる若手職員を複数育成することができたことも大きな収穫だったと思います。新メンバーは漠然とした不安を抱えて参加してきますが、核となるメンバーにはやり遂げたことがある、という自信がついています。度重なる打ち合わせの中で、自分が考えていること、感じたことはどの程度信用できるのか、みんなに通じるのか、といった経験をしていく中で自分の判断に自信がもてるようになっていったと思えます。

最後になりましたが、基礎知識の内容を見ていただき、多くのご意見を寄せていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



(さとう・はつみ)

平成17年度目録システム地域講習会（図書コース）を受講して

工学分館整理・運用係 小清水 裕子

去る6月15日から17日までの3日間、東北大学附属図書館において標記講習会が開催され、北海道・東北地区の国立大学や私立大学および県立図書館などから合計15名が参加しました。

新規採用の私は4月から目録担当として配属され、周囲の方々に教えていただきながら業務をしていたのですが、ようやく仕事の流れが掴めてきたこの時期に、目録システムを体系的に学べたことは非常に有意義だったと思います。

また何よりよかったのは、同じ目録業務に携わっている方々と知り合いになることができたことです。毎日見ている無機質な画面の向こう側には、今回出会った目録の仲間がいて、その仲間たちと業務を分担しているのだと考えると、目録という仕事の重要さ・面白さを感じずにはいられません。今回の講習会は、仕事のモチベーションにも大きな刺激を与えてくれました。

さて、その「業務を分担する」ということなのですが、今回講習会を受講して、目録システムの現状（データは全て平成16年度）を知ることができました。NACSIS-CAT 接続機関は1,037機関。また、図書所蔵登録件数は1年間で7,714万件。目録システムが走り出したばかりの昭和60年度は1,887件だったというから驚きです。また、平日1日当たりの登録状況は、図書は書誌が2,000件、所蔵が25,000件。このデータを見ても分かるように、毎日全国の膨大な量の図書の情報が目録システムに集まっている訳です。昔と比較すると、現在の目録は書誌を作る時間が短縮され、資料をより迅速に利用者に届けられることができるというメリットを持つと思います。

しかしながら、大きさ・ページ数・シリーズ名などのデータ修正を行う書誌調整という作業が、私が目録に携わってからだけでも数日に1度は必ずあり、目録システムの品質維持の難しさを痛感しています。書誌調整がこんなにも頻繁に行われていることは、大学で図書館学を学んでいるときは知りませんでした。共同分担方式では書誌作成の省力化は果たされたのかもしれませんが、このような別のところで手間がかかってはせっかくの目録システムの長所が生かされないと思います。それには、まず私たち目録担当者が常日頃から慎重にかつ正確な目録をとる努力を怠らないことが必要でしょう。また、本講習会のように、目録の新人が目録規則・NII 規則・パソコンの操作に早く習熟できるような機会を多く設けていただくことは非常に有益だと思います。

目録はいつの時代も図書館サービスの大事な根幹だと思います。雑誌論文を賑わせる ILL や利用者教育、レファレンス・サービス等は、正確な情報を持つ目録があって初めて成り立つサービスなのではないでしょうか。これは私が実際に大学図書館に勤務して、はじめて実感したことでした。現在はあまり注目されることの少ない目録業務ですが、利用者にはもちろん、サービスする側にも大切な情報を提供しているという意識を持って、『迅速に、正確に』をスローガンにして毎日の業務をこなしていこうと決意を新たにしたところです。改めて目録の意義を問うという意味でも、今回の講習会は良い機会になったと思います。

最後に、講師の方々ならびに本講習会の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

（こしみず・ゆうこ）

平成17年度大学図書館職員長期研修に参加して

医学分館運用係 福 井 ひ と み

このたび、平成17年7月4日(月)～15日(金)の2週間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた平成17年度大学図書館職員長期研修に参加する機会を得た。

研修内容は多岐にわたっており、大別すると図書館経営論、学術情報流通論、情報サービス論、企画立案演習、見学の5つに分けられていた。

全体を通して、大学図書館経営・運営についての多方面にわたる知識や情報を得られるようになっており、深く考えさせられた。その現状について大きくまとめると、コストを減らす(現状では主に人件費の削減)努力、収入を得る(増やす)努力、そして、様々なサービス展開といった3点にまとめられるように思った。

コスト削減については、グループ制の導入や組織・係の改変・統廃合、業務見直しによる人員削減、受入の一本化、外部委託等が挙げられていた。外部委託の代表的なものは、時間外閲覧業務、カウンター業務、整理業務等で、その他に、公共図書館での図書館全部の外部委託という事例も挙げられていた。

収入を得る努力については、講義中、外部資金の導入という言葉が度々出てきた。例としてあげられたのはプロジェクト経費や科研費等の利用であった。(学内経費としては、総長裁量経費等の利用も挙げられていた。)

図書館の主たる業務であるサービスに関しては、リテラシー教育やe-DDS、機関リポジトリ(の構築)、地域との連携などが特に強調して挙げられていた。

サービスに関連してマーケティングに関する講義も幾つかあったが、(サービス面に関して)

マーケティングの必要性を強く感じた。今までの図書館サービスは利用者やニーズの把握が不十分であったように思い、特にこれからはニーズのある所に必要なサービスを手厚くし、合理化できるところは合理化していくといったメリハリも必要になるであろうと思った。さらに今回、この他にも様々な事例を見聞きし、サービスにはまだまだ(自分が発想できない物やニーズはあってもまだ提供できる状態にないもの、潜在的利用者層へのアプローチなどなど)たくさんあり、サービスを通して図書館をPRしていくなどPR方法にも、まだまだ色々あると感じた。特にPRに関して図書館はこれまで学内に対してすら、あまり行ってこなかったが、今後、大学運営自体が厳しさを増すと考えられる中で、図書館はその存続のためにも、まず学内に対してその存在意義や必要性、職務内容やその有用性等を積極的にアピールしていく必要があるのではないかと思った。

今回、この研修に参加してたくさんの知識や情報を得、日頃あまり考えることのなかった大学図書館やその将来について深く考え、目から何枚もの鱗が落ちたように思う。このようなリフレッシュの機会を持てたことは大変幸せなことと思う。また、本研修を通じてこれからも支えてもらい、助けてもらおうであろう、たくさんの仲間に出会えた事も大きな収穫と言えるだろう。

そして、不在中の全ての業務をサポートして下さった係の皆様には深く感謝しています。

(ふくい・ひとみ)

東北地区大学図書館協議会合同研修会に参加して

総務課課長補佐 高 橋 信 野

「24時間オープン図書館の実情と展望」を基調講演として7月22日「東北地区大学図書館協議会主催の合同研修会（以下「研修会」という。）」が、秋田市雄和町の国際教養大学において開催されました。

東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）は、昭和22年の発足以来58年の歴史を誇っています。協議会の加盟館は現在（平成17年9月15日）、国立大学法人15館、公立大学12館、私立大学33館計60館で構成されています。

協議会は、種々の活動を行っています。その活動の一環として研修会を各県持ち回りでっており、今回は、秋田地区を当番として行われたものです。

研修会の内容は、当番地区の加盟館が協議の上、決定することとなっています。これまでの研修会は、例外なく各県の国立大学法人において開催されており今回、国際教養大学（公益法人）で開催することが決定された時は、いったいどんな内容になるのか興味津々でした。その後、研修会の内容について相談を受け、従来とは全く異なったものが提案がされた時、是非やってくださいと声を高くして答えている自分がありました。一言で言いますと「秋田の手作りの研修会」というキャッチフレーズでした。

具体的な研修会の内容は、冒頭の国際教養大学勝又図書館長による基調講演に続いて①今後の図書館のありかたについて（秋田経済法科大学）②本学における休日夜間開館について（秋田県立大学本荘キャンパス）③図書館活動－図書館同好会とともに（秋田公立美術工芸短期大学）④秋田大学図書館の新たな取り組みについて（秋田大学）4件の事例発表が行われました。

その中で印象に残ったものを紹介します。

1. 基調講演「24時間オープン図書館の実情と展望」

- ・国際教養大学を公立にしなかったのは、国立、公立の大学でなかったから、24時間オープン図書館が可能であったという言葉は、印象深いものでした。
- ・お金も人手もないのに何ができるのかとい

う質問については、「頭を使え、まずやってみなければ何も変わらない」という答えに大学人として目から鱗が落ちる思いでした。

- ・国際教養大学の学生は、自分の大学に誇りを持っていると勝又館長が自信を持ってアピールしていました。このことは、これから大学全入時代に対して、大学の本来のあるべき姿を実践しているように感じられました。

講演を通じて勝又館長、中嶋学長の図書館及び学生に対する思いやり、熱意が随所に感じられました。

なお、国際教養大学は平成16年4月から学生（定員100人）を受け入れており、現在2年目で学年進行中です。

「国際的に活躍できる人材を育てる」ことを目標に授業は、全て英語で行うという斬新なカリキュラムで教育を行っています。

2. 図書館活動－図書館同好会とともに（秋田公立美術工芸短期大学）

図書館同好会（サークル）を作って、教員、職員、学生が一体となって図書館活動の活性化を図っている取り組みに、これからの図書館のあり方を考えさせられました。

秋田公立美術工芸短期大学は、1学年の定員が150人の美術系の短期大学です。

4件の事例発表は、他の大学の図書館がやっているからということではなく、それぞれの図書館が種々工夫し、身の丈に合ったことを行っている「手作りの活動状況」の報告でした。

これを機会に、本館においても頭を使って特色ある活動に取り組んで行かなければと強く感じる今日この頃です。

研修会には国公私立合わせて46人と多数の大学図書館職員が参加しました。

この研修を通じて、協議会の加盟館をはじめ大学図書館全体が、より活性化し、それぞれ個性が輝く活動を行っていく契機となれば幸いです。

（たかはし・しんや）

平成16年度参考図書購入報告

参考図書費により平成16年度に購入し、本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

(情報管理課)

◆ 主な継続受入資料 ◆

Book page 本の年鑑 2004
イミダス 2005
会社四季報：2004年 3， 4 集
会社四季報 2005年 1， 2 集
会社職員録 全上場会社版 2005 上， 下巻
会社職員録 全店頭登録・非上場会社版 2004
会社年鑑 上場会社版 2005 上， 下巻
現代用語の基礎知識 2005
国語年鑑 2004年版
国会便覧 平成17年 2 月新版 114-115版
雑誌新聞総かたろぐ 2004年版
宗教年鑑 平成15年版 /文化庁編
職員録 平成16年版 上， 下（付：CD-ROM；職員録追録（1））
人物文献目録 外国人編（1995-2001）
人物文献目録 日本人編（1995-2001）
世界国勢図会 第15版/財団法人矢野恒太記念会編
世界年鑑 2004
世界児童青少年文学情報大事典 13-16
全国学校総覧 2005
全国短大・高専職員録
全国大学職員録 平成16年版 国公立大学編
全国大学職員録 平成16年版 私立大学編
台湾総督府文書目録 第16-17巻
知恵蔵－朝日現代用語－2005
中国書籍総目録 94-111
中国年鑑 2004
図書館年鑑 2004
日本経済新聞 CD-ROM 版 2003年版
日本国勢図会 2004/05
出版年鑑＋日本書籍総目録 CD-ROM 2004年版 第 1 - 3 巻
日本都市年鑑 62/2004
日本の図書館－統計と名簿－2003
美術年鑑 平成17年版
ブリタニカ国際年鑑 2004年版
読売年鑑 2005
読売年鑑 別冊 分野別人名録
理科年表 第78冊 （2005）
六法全書 平成16年版 1， 2

American reference books annual 35
Britannica book of the year 2004
Dizionario biografico degli italiani Vol.62
The europa World Year Book 2004 vol.1-2
Grande enciclopedia portuguesa e Brasileira. Livro do ano 2001-03
IBZ vol.39 1-6

Index Bio-Bibliographicus Notorum Hominum Pars.C 122-123
International Who's who 2005
McGraw-Hill Yearbook of Science & Technology 2005
The Statesman's year-book 2005
Wer ist wer? : Das deutsche who's who BD.43 2004/05
Whitaker's Almanack 137th ed. 2005
Who was who in America : with world motables 2002-2004 Vol.15
Who's who 2005
Who's who in America 2005. 59th ed. Vol.1-2
Who's who in france 2004-2005
The world almanac and book of facts 2005
The world of learning 2005 vol.1-2

◆ その他の主な受入資料 ◆

大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM 版 : OMIS 2001-02
音楽・芸能賞事典 1996/2001
音楽年鑑 2004
歌舞伎人名事典 新訂増補
環境問題文献目録 2000-2002
外国人物レファレンス事典 : 20世紀 1-7
画集写真集全情報 91/96, 97/01
学会年報・研究報告論文総覧 1996-2002 第3巻
弓道人名大事典
現代日本人名録 新訂 : 2002 : 1-4
現代評論家人名事典 新訂第3版
現代物故者事典 2000-2002
最新海外作家事典 新訂第3版
最新科学賞事典 1997-2002
最新図書館用語大辞典
雑誌名変遷総覧 1 (人文・社会編)
詩歌人名事典 新訂第2版
主題書誌索引 1992-2000
人物レファレンス事典 新訂増補 昭和(戦後)・平成編 あ〜わ
図説幕末明治流行事典
世界文学詩歌全集・作品名総覧 : 上, 下 (世界文学総覧シリーズ 16)
世界文学詩歌全集・作家名総覧 : 上, 下 (世界文学総覧シリーズ 15)
世界文学詩歌全集・内容総覧 上, 下 (世界文学総覧シリーズ14)
地理学文献目録 第11集
帝国大学出身人名辞典 第1-4巻
夏目漱石原稿「道草」 上, 中, 下巻
ニッポニカ URL セレクト : 2004-05 上, 下巻
日本人名情報総覧 第1-5巻
日本著者名・人名典拠録 新訂増補 1-4
日本美術作品レファレンス事典 工芸篇, 建造物篇
日本近代文学年表
日本現代小説大事典 [予約版]
美術家名鑑 2004年版
マスコミ文献大事典 第1-3巻
水ハンドブック
民話・昔話集内容総覧
明治世相編年辞典 : 新装版

平成16年度特別図書購入報告

特別図書購入費によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。(情報管理課)

番号	資 料 名	内 容	出版形態
1	Morphology.(Critical Concepts in Linguistics). (『形態論』言語学における重要概念)	現代言語研究における重要な概念をまとめた論文集であり、研究者のみならず初学者が研究をはじめめる上で参考になる。	図 書
2	四庫未収書輯刊 第捌輯	清朝乾隆期に編纂された『四庫全書』が中国伝統文化の宝庫であることは言うまでもないが、当時の政治的社会的状況を原因として編纂の対象から外されたり、編纂官らが発見できなかった重要な典籍は、相当数にのぼる。また、乾隆から清末までの200年間に生み出された書物にも大きな価値を有するものが少なくなく、1920年代以降、『四庫未収書』の編纂が計画されては頓挫していた。 『四庫未収書輯刊』第捌輯は、同輯編纂委員会が、2000年1月以降、すべて十輯にわたる叢書として逐次出版した典籍群のうち、八番目に刊行された叢書である（本学には第柒輯までしか収められていない）。その内訳は、清朝一代の人士による経書の注釈、地理書、本草書、道典、詩文書等、訳40点であり、当該時代の政治や文化、諸学術を研究するうえで不可欠の文献である。また、中国学のみならず、日本史、日本思想史、国文学、国語学、東洋日本美術史等の研究分野にも有益な叢書である。	図 書
3	敗戦前後の社会情勢	太平洋戦争末期・敗戦後の民衆の生活実態や民心の動向の報告など当時の貴重な資料をまとめた資料集。	図 書
4	The Time Higher Education Supplement, 1999-2003.	高等教育全般に関する情報を収集した資料。	マイクロフィルム
5	East Central Europe. Vol. 1-6.(1974-1979) (東中央ヨーロッパ研究史)	北米圏で出版されている、東中欧地域を対象とした社会科学・歴史学分野の専門学術誌。国内での所蔵に乏しい。	図 書
6	アメリカ合衆国対日政策文書集成 第14期	アメリカ合衆国が所蔵する日米関係文書から、日米外交防衛問題（1969年沖縄）に関する文書を編纂したものである。	図 書

番号	資 料 名	内 容	出 版 形 態
7	政友特報 第1期 全7巻	政友会本部の活動・主張，中央政界の動向をリアルタイムで伝える「日誌」とも言える第1級資料である。	図 書
8	The Legacy of Piero Sraffa. 2vols. Kurz, Heinz D./Salvadori, N. (eds.) (Intellectual Legacies in Modern Economics Series) E. Elgar. (P. スラッファの遺産)	新古典派経済学に対するスラッファ自身の批判とそれらをさらに発展させた文献も包括的にふくまれており，さらにスラッファの未刊の論文に関する文献までも含まれているので貴重なものである。	図 書
9	Banker's Magazine London. Vol. 1-26. (「銀行家雑誌」 ロンドン)	銀行家の間で回覧された雑誌。銀行や金融市場に関する情報が掲載されている。	製本雑誌
10	Cambridge Applied Linguistics. (ケンブリッジ応用言語学叢書)	応用言語学の基礎的理論を網羅した叢書。	図 書
11	The Greenwood Encyclopedia of American Regional Cultures. (グリーンウッド版アメリカ地域文化百科事典)	アメリカ合衆国を8つの地域に分類し，それぞれの地域のエスニシティや文学，音楽，スポーツ，食物などの様々な文化を網羅したレファレンス。	図 書
12	World Bibliographical Series. (世界書誌シリーズ) 第1叢書－中東地域	中東地域の国別参考文献の解題書誌シリーズ。	図 書
13	World Bibliographical Series. (世界書誌シリーズ) 第2叢書－湾岸・西アジア地域	湾岸・西アジア地域の国別参考文献の解題書誌シリーズ。	図 書
14	Early English Books. STC2. Unit 126-127 (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
15	Parliamentary Debates(Hansard). House of Lords 5th ser., Vols. 652-663 (英国議会上院議事録) House of Commons 6th ser., Vols. 414, 417-423 (英国議会下院議事録)	英国議会上院及び下院における会期毎の議事録及び議事全体について，議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図 書

附属図書館オープンキャンパス2005開催報告

総務課情報企画係

さる7月28日（木）、29日（金）の両日オープンキャンパスを実施しました。今年は例年行っている館内ツアーの他、以下のイベントを開催しました。

・「東北大学とアインシュタイン： 「相対性理論」誕生百周年記念展示」



2005年は、アインシュタインの相対性理論発表から100周年ということで「国際物理年」となっている。アインシュタインはノーベル賞を受賞した1922年に日本を訪れているが、このとき東北大学でも講演会を行っている。今回の展示では、「相対性理論」の概要をパネル等で説明するとともに、来仙の際に東北大学教授陣と撮った写真や、当時の様子を報じる新聞記事なども展示し、東北大学とのつながりの深さを強調した。また、土井晩翠宛の直筆の手紙を附属図書館で所蔵していることから、これらも日本語訳付きで（原文はドイツ語）写真展示を行った。

オープンキャンパスの期間中は、全学への来場者が見逃すことのないよう、市内5キャンパスの図書館（本館・分館）で同時開催した。

来場者からは、「アインシュタインが仙台（東北大学）を訪れていることを初めて知った」「直

筆の手紙（写真）を見て感動した」など多くの感想が寄せられた。

・「書籍でたどる茶道の歴史」展

附属図書館では2005年4月から、図書館員の個人企画によるミニ展示を本館エントランスの常設展コーナーで開催している。オープンキャンパスを実施した7月は、当館所蔵の貴重な資料から「茶道」に関する展示を行っており、特別企画としてオープンキャンパスの初日のみ「お茶会」を館内で開催した。実施にあたっては東北大学学友会茶道部の協力を仰ぎ、事前の広報がなかったにもかかわらず用意した100名分のお茶とお菓子が予定より早くなくなるなど盛況であった。展示については、事前にホームページなどで広報していたこともあり、高校生のほかに茶道関係者も多く訪れ、茶道の歴史を紐解く貴重な資料を目にすることができたことに喜びの声が寄せられた。



2日間の来場者数及びアンケートの集計結果は以下のとおり。

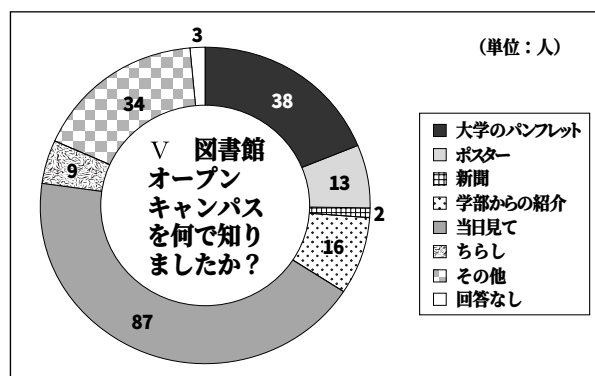
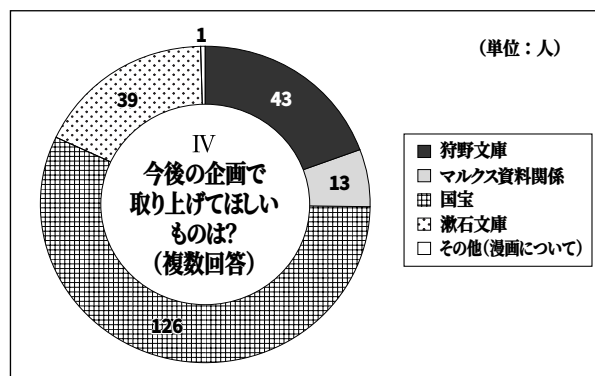
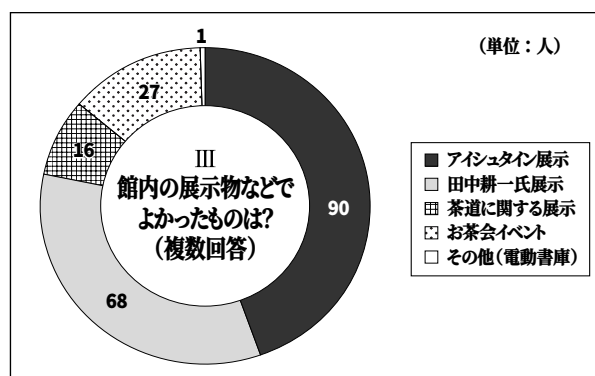
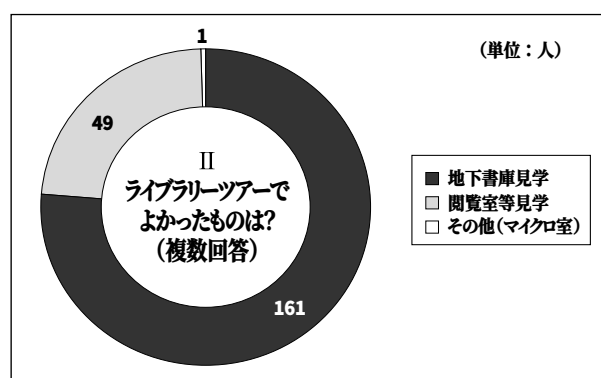
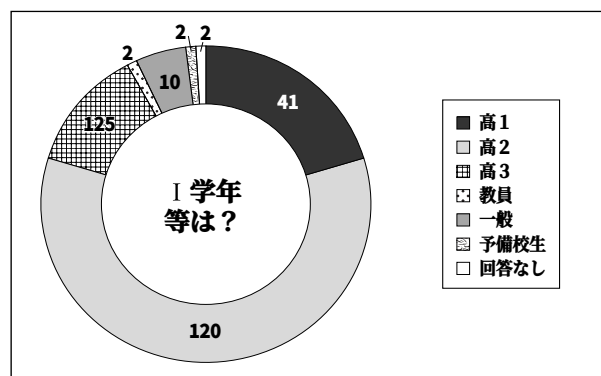
●入館者数 (人)

2005年7月28日(木)	1,211
2005年7月29日(金)	1,370
合 計	2,581

●図書館ツアー参加者数

2005年7月28日(木)	157
2005年7月29日(金)	261
合 計	418

アンケート回答202名



その他ご意見・ご要望

- ・説明が丁寧だった。(高1)
- ・すごく興味を持ちました。(高2)
- ・また来たいです。(高2)
- ・すごく楽しかったです。(高2)
- ・今までで一番広い図書館でした。(高2)
- ・全部すごかったです。(高2)
- ・ツアー楽しかったです。(高2)
- ・説明の方がとても丁寧でいい人でした。(高2)

最近の話題から（その5）「飛び回る妖怪」

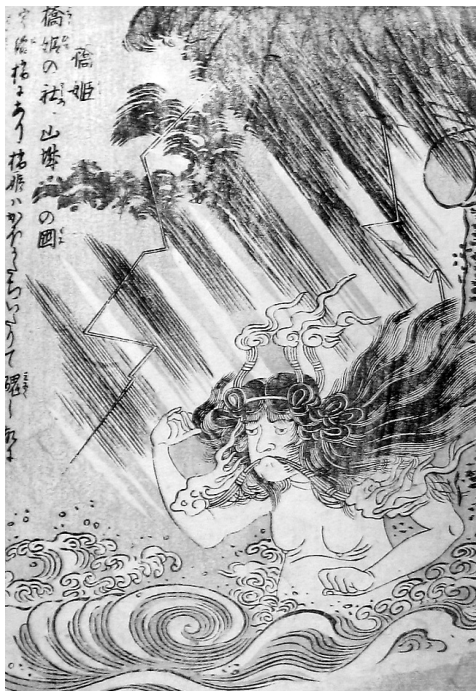
情報サービス課閲覧第二係長 菅 原 透

この夏は、本に雑誌にテレビにと、本館所蔵狩野文庫の妖怪本^(注)が大人気(?)で、あちらこちらに出没しました。まさに引っ張りだこの状況です。

妖怪・化け物という言葉から想像されるイメージは、最近のホラー映画やCM等によって、恐ろしくも気味の悪い印象が植え付けられがちです。しかし、江戸時代の書籍に登場する妖怪たちは、ときにはユーモラスであり、ときには凛々しく、見る側の興味を引き立てるものが少なくありません。

約十万八千冊からなる狩野文庫は「古典の百科全書」とも呼ばれており、妖怪に関する資料も多数所蔵しています。ここではその中から、最近活躍中の数点(掲載・放映・出品した資料)をご紹介します。

『今昔續百鬼』鳥山石燕画 文化二年(1805)



京極夏彦や水木しげるが鳥山石燕から多くの影響を受けているといわれていますが、パワフルで精緻な描写力は、現代の漫画に通じるところがあるかもしれません。前図の「橋姫」は、怨めしい相手を呪うため、京都の宇治川に浸って生きながら鬼になったという伝説です。心情の激しさが荒れた天候と迫力ある人物造形とによって伝わってきます。はっきりいってコワイ絵です。



上図の「丑の刻参り」も、橋姫が原型とされています。深夜、頭に蠟燭を灯して妬ましい女を呪詛している姿は、恐ろしいことこの上ないですが、しかし隣で寝そべっている牛(?)がイイ雰囲気を醸し出しています。

『化物の嫁入』十返舎一九作；勝川春英画 文化四年(1807)刊

擬人化された動物や妖怪たちが、人間世界の嫁入りの儀式を真似る草双紙です。



化け物とはいっても、読む者を震え上がらせるような恐ろしさは微塵も感じさせず、逆に愛嬌のあるキャラクターが登場します。下図の化け物（ガマ蛙）は仲人役ですが、身近に似た人がいそうな気がしてきます。



『妖怪一年草』十返舎一九作；勝川春英画 文化五年（1808）刊

次図は、化け物たちの親玉，見越入道です。『化物の娘入』絵題箋と同一化物ですが，ここでは自分の長い首を縮めて，ちょっととぼけた，かしこまった表情をしています。それは何故か

というと，化物たちの静かなお正月を迎えて，挨拶をしているからです。曰く，『化けましてよい春でござります。』…。



さて，妖怪本は根強いファンがいる一方，コワイものはちょっと…と受け付けられない人もいるのではないのでしょうか。しかし良書にめぐり会えたなら，きっと，新たな世界が待っていることでしょう。これから，図書館の展示会等なんらかの機会に，そのような出会いを創り出していったらと考えています。

狩野文庫の妖怪関係の資料はこれから，外国の書籍に掲載されたり，海外の展示会への出品などが予定されています。今後も妖怪たちは世界を飛び回ることでしょう。

注）妖怪，化物，幽霊，もののけなどは厳密に区分される場合もありますが，ここでは区別しておりませんので悪しからずご了承ください。

参考文献

1. アダム・カバット編，「江戸化物草紙」，小学館，1999
2. 宮本幸枝著，「津々浦々お化け生息マップ」，技術評論社，2005
3. 鳥山石燕著「画図百鬼夜行全画集」角川書店，2005

（すがわら・とおる）

平成17年度東北大学附属図書館企画展

「江戸の食文化ースローフードのルーツをたどるー」

平成17年度の企画展は、「江戸の食文化」をテーマとして開催します。

現在の伝統的な日本料理は、その多くが江戸時代に創意工夫がなされ発展してきました。近年ではスローフード運動との関連の中で再評価がなされつつありますが、江戸時代の食文化は、現代日本人の食生活の原点ともいえるものです。

さて、今回の企画展では、本館が所蔵する江戸学の宝庫「狩野文庫」を中心に、江戸時代の食文化に関連する資料を多数展示します。江戸の食生活を想像しつつ、現代の食についても思いを巡らせて頂ければと思います。

なお今年は、より地域に開かれた、親しみやすい企画展とするため、大学キャンパスを離れて仙台市中心部の施設で開催することといたしました。また、企画展だけではなく、著名人の講演会やシンポジウムなどの関連企画により、多彩に企画展を楽しむことができるように工夫しております。ぜひご来場ください。



■企画展（入場無料）

会場：白松ロフトホール

（白松がモナカ本舗晩翠通店4F、5F）

期間：平成17年11月18日（金）～

平成17年11月27日（日）

9：00～19：00

□展示概要：

「第1部 日本料理の成り立ち」

大名料理から会席料理までにいたる歩みを、代表的な料理書を通じて知る。



「第2部 江戸庶民の食事」

多彩な資料を通して、江戸前寿司、鰻、蕎麦、天ぷらなどを生んだ江戸の外食産業と庶民の食事を知る。



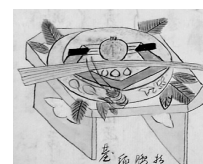
「第3部 江戸の菓子・酒」

食事に彩りをあたえる、江戸の菓子・酒を知る。



「第4部 仙台藩の食と名産品」

江戸時代の仙台藩（現在の宮城県と岩手県一関地方）における大名と庶民の食を知る。



■記念講演会（入場無料）

演題：「江戸庶民の食と宴」

講師：石川英輔 氏

会場：せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア



日時：平成17年11月20日（日）
13：00～14：30

プロフィール：1933年、京都生まれ。作家。ミカ製版株式会社取締役。NHKテレビ「道中でござる」に出演中。著作は「大江戸神仙伝」、「大江戸エネルギー事情」、「大江戸番付事情」、「クリエイターのためのカラー印刷ゼミナール」など多数。

■記念シンポジウム（入場無料）

テーマ：「江戸の食文化とスローフード」

パネリスト：

- ・小澤弘氏（東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室長・教授）
- ・原田信男氏（国土舘大学21世紀アジア学部教授）
- ・大森洋平氏（NHKアーカイブス 考証班チーフディレクター）
- ・若生裕俊氏（スローフードジャパン会長）

会場：せんだいメディアテーク

1 F オープンスクエア

日時：平成17年11月20日（日）
14：45～16：30

□シンポジウム概要：

冒頭に小澤氏から「絵画に描かれた江戸の食文化」と題してお話をいただきます。原田氏からは江戸の食文化と現代の食文化の違いについて、大森氏からは時代劇ドラマなどでの時代考証経験から、食に関わるエピソードなどをお話いただきます。若生氏にはスローフード運動の概要と江戸の食文化への関心などをお話いただき、全体としてスローフードが脚光を浴びている背景、江戸時代の食文化から学べることなど、様々な関心が指摘されている現代の食文化を見直す機会にしたいと思います。

■関連企画「記念御菓子」

江戸時代のお菓子を復元します！

展示期間中に限定100個のみの製作となりますので、来場者へ優先販売いたします。

どのようなお菓子が登場するか、おたのしみ

（製作協力・販売：
白松がモナカ本舗）



■共催・協賛等

本企画展は、東北大学創立百周年記念事業として開催されます。

また、次の機関から共催・協賛・後援・協力をいただいております。

共催：仙台市教育委員会、白松がモナカ本舗

協賛：東北大学研究教育振興財団

協力：宮城県図書館、仙台市歴史民俗資料館、岩出山町教育委員会、斎藤報恩会自然史博物館、（株）佐々重、菅野正夫氏

後援：宮城県教育委員会、NHK 仙台放送局、TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、Date fm、ラジオ3、河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局

（閲覧第二係）

特別展示会「時代を語る雑誌たち～雑誌メディアと戦時動員～」の開催

期間：平成17年10月8日（土）
～10月24日（月）
10：00～17：00

場所：東北大学附属図書館本館大視聴覚室

内容：戦時中に出版された幼児雑誌，少女少女雑誌，婦人雑誌，政府情報誌などを中心に展示します。色彩豊かな表紙から時代の表情をご覧ください。（入場無料）

（主催：教育史学会 共催：東北大学大学院教育学研究科，東北大学附属図書館）

第60回東北地区大学図書館協議会総会

表記会議が，9月15日（木）青森大学・青森短期大学が当番館となり，ホテル青森を会場として37館から62名の参加を得て開催され，次の協議題について活発に意見交換が行われた。

- 1) 「図書館のすすめ」を他機関等に配付することについて
- 2) 東北大学附属図書館のHPに東北地区大学図書館協議会のウェブサイトを開設することについて
- 3) フレッシュ・パーソン・セミナーの開催について

- 4) 学術奨励賞について
- 5) 加盟館職員名簿の掲載について
- 6) 役員館の改選について
- 7) その他
 - ① 合同研修会の在り方について
 - ② 東北地区大学図書館協議会略年譜の作成について

会 議

◎学 内

17. 6.24 平成17年度第3回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 副館長の選考について
- 2) 図書資産ガイドライン作成について
- 3) 学術情報整備検討委員会委員長の選出について
- 4) 平成17年度附属図書館運営予算（案）について
- 5) 平成17年度図書館資料予算（案）について
- 6) その他

・報告事項

- 1) 東北地区大学図書館協議会合同研修会の開催について
- 2) 電子ジャーナルの不正利用について
- 3) 附属図書館の中期目標・中期計画の平成16年度実施報告について
- 4) 地域目録講習会（図書コース）の開催について
- 5) 自由閲覧室における盗難について
- 6) アインシュタイン特別企画展について
- 7) その他

17. 9.12 平成17年度第4回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 「地震対応マニュアル（案）」について
- 2) 図書資産実査検討WGメンバー名簿（案）について
- 3) その他

・報告事項

- 1) 副館長の選考について
- 2) 自己評価報告書について
- 3) 宮城県沖地震災害（8月16日）について

- 4) 監査法人による会計監査（9月2日）について

- 5) 図書館情報処理システムの更新について
- 6) アスベスト調査について
- 7) オープンキャンパスについて
- 8) 図書資産ガイドライン（案）について
- 9) 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会（合同会議）について
- 10) その他

17. 7. 8 平成17年度第1回附属図書館商議会議

・協議事項

- 1) 副館長の選考について
- 2) 図書資産ガイドラインワーキンググループの設置について
- 3) 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会（合同会議）について
- 4) その他

・報告事項

- 1) 平成17年度第1回、2回附属図書館運営会議について
- 2) 附属図書館の中期目標・中期計画の平成16年度実施報告について
- 3) 平成17年度第1回学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会（合同会議）報告について
- 4) 平成17年度附属図書館運営予算（案）について
- 5) 平成17年度図書館資料予算（案）について
- 6) 第52回国立大学図書館協会総会について
- 7) 平成17年度地域目録講習会（図書コース）の開催について
- 8) 電子ジャーナルの不正利用について
- 9) 自由閲覧室における盗難事故について
- 10) アインシュタイン特別企画展について
- 11) 平成17年度秋の企画展について

12) 各分館からの報告について

13) その他

17. 9.28 平成17年度第2回附属図書館商議会

・協議事項

1) 副館長の選考について

2) 学術情報整備について

3) 図書資産ガイドライン（案）について

4) 自己評価報告書（案）について

5) 図書共通経費ワーキンググループの設置について

6) その他

・報告事項

1) 平成17年度第3回, 4回附属図書館運営会議について

2) 平成17年度第2回, 3回学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会（合同会議）報告について

3) 東北地区電子ジャーナルコンソーシアム会議について

4) 図書資産実査について

5) 8.16宮城地震について

6) 図書館情報処理システムの更新について

7) アスベスト調査について

8) オープンキャンパスについて

9) 各分館からの報告について

10) その他

人 事 異 動

平成17年9月30日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
17. 4. 1	広報・情報部広報課長	高 橋 豊 志	医学分館事務長	配置換
"	医学分館事務長	佐 藤 克 義	人事部人事課課長補佐	昇 任
7.31		浅 沼 良 子	総務課庶務係	任期満了
"		及 川 優 子	事務補佐員（情報サービス課・相互利用係）	"
8. 1	総務課庶務係主任	伊 藤 亜紀子		職務復帰
"	事務補佐員（情報サービス課・相互利用係）	尾 澤 佑希恵		採 用
9.30		今 泉 隆 雄	図書館副館長	辞 職

編 集 後 記

8月16日の宮城地震は、天災は忘れたころの言葉が現実のものとなってしまいました。幸いにも本館は、一斉休館中であったため人的被害全くありませんでしたが、3,000冊程の落下本がありました。

落下本は、2階より3階、3階より4階と上の階に行くほど多くなり、地震の揺れが激しいことが伺われました。

17日の朝から職員総出で落下本の整理を行い、利用者の便を図りました。

その他の被害としては、2号館4階の冷房用のパイプがずれてしまい天井から水がしたり落ちてきました。

近未来間違いなく宮城県に大きな地震が来ることが予想されております。

今回の地震を教訓に、本館だけでなく「備えあれば憂いなし」の格言を活かしていかなければと思います。

・木這子30巻1号から、東北大学のロゴマークを入れ、2色刷りとなりましたが、いかがでしょうか。

・従来、本館内で開催しておりました特別企画展を今回は、白松ロフトホールで行いますので、是非ご覧くださるよう案内します。

(S.T)



落下本の様子

東北大学附属図書館報「木這子」 第30巻第2号（通巻111号）発行日 平成17年9月30日

発行人 内藤 英雄 広報委員長 諏訪田 義美

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 電話 022-795-5911, FAX 022-795-5909

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>